

2022 年度

琉球大学島嶼地域科学研究所 所報

RIIS Annual Report 2022



島嶼地域科学研究所

Research Institute for Islands and Sustainability

目次 Index

2022 年度所報の発刊にあたって	1
I. 組織	
1. 組織構成図	5
2. 運営組織	6
(1) 研究所会議	
(2) 所内委員会組織	
3. 構成員	8
(1) 専任・併任教員	
(2) 客員研究員	
II. 研究事業等	
1. 研究プロジェクト・事業	11
(1) 日本学術振興会課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 『対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学 の体系化』	
2. 公募型共同研究・個人型共同利用	13
3. テーマ設定型共同研究	14
4. 出版物	15
(1) 定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌） ・ <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> ・ 『島嶼地域科学』	
5. 研究成果の発信と普及	21
(1) 研究資源データベース	
(2) 共通教育科目「島嶼地域科学入門」	
III. 教員の研究・教育活動と成果	
1. 研究業績（専任・併任教員）	25
原著論文、書籍、その他（資料、解説、雑文、新聞・雑誌への投稿等）、 招待講演、学会発表、表彰・受賞等	
2. 教育活動（専任教員）	34
学部教育、大学院教育、その他の教育活動	
3. 社会連携（専任教員）	37

IV. 外部資金等研究費獲得状況

1. 科学研究費助成事業	40
2. その他の競争的資金	44
3. 受託研究	45

V. 研究所運営

1. 研究所会議	47
2. 所内委員会組織	51
(1) 共同利用・共同研究運営委員会	
(2) 協議委員会	
(3) <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> 編集委員会	
(4) 『島嶼地域科学』編集委員会	
3. 専任教員ミーティング	53
4. Academic Development	55
5. 広報（HP・SNS）	56

付属資料

1. オンライン講演「過去の選択的召喚と棄却されるオーセンティシティ」ポスター	
2. 特別講義「内部差の大きいスラブ少数言語のための正書法」ポスター	
3. 2022 年度個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会ポスター	

2022 年度所報の発刊にあたって

2022 年度島嶼地域科学研究所所報の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

島嶼地域科学研究所（Research Institute for Islands and Sustainability）となって 5 年目を迎えたこの年、新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら、私どもは自らの研究活動および研究所運営を進めてまいりました。

学外の島嶼地域研究者との連携拡充を目的とした公募型の共同利用・共同研究事業（2018 年度～）のうち、本研究所を拠点に沖縄における研究を個人で進める「個人型共同利用」事業として、1 件の研究課題を採択させていただきました。この取組は島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すもので、本研究所の事業のなかでも非常に重要な位置づけにあります。また新型コロナウイルスの感染拡大状況から公募を一時停止していましたが、3 人以上の研究グループによる「公募型共同研究」を再開し、1 件の研究課題を採択させていただきました。これにより、ようやく島嶼地域研究の本格的再開に踏み切ることができたと思っております。

本研究所として、自律的・持続的島嶼地域社会の形成に寄与すべき、新型コロナウイルス感染状況下においても実行可能な研究事業は、積極的に推し進めてまいりました。特に、2020 年度に新たな研究プロジェクトとして始めました「対話型アーカイブズによる新たな『島嶼の知』の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」（日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」（領域開拓プログラム）、2020～2022 年度）が、最終年度を迎えました。これは、研究者による学術的調査とそれへの地域（住民と行政）の直接的関与に基づくアーカイブズを形成し、それを地域住民、行政、研究者が協働し対話する動態的プラットフォームとして稼働させることで、島嶼の知を意識的に結集し地域課題の解決に導く方法論の構築に向けた調査研究と議論を積み重ねていくものです。本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」としての同プロジェクトは終了いたしました。2023 年度以降も、調査対象地域としていた宮古島市狩俣地区との関係を継続し、研究活動を進めていきたいと考えています。

弊所が発刊する *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)* と和文誌『島嶼地域科学』は広く国内外から投稿を受け付ける査読誌です。前者は世界の著名な島嶼地域研究者をアドバイザーボードに迎え、世界の島嶼地域研究をリードすべく発刊するものです。査読論文を広く世界に発信するため、第 4 号からオンラインジャーナルとしての発刊に舵を切りました。その第 4 号は、2023 年 5 月に発刊いたします。また和文誌『島嶼地域科学』は 2022 年度中に論文投稿と査読を進め、2023 年 6 月には第 4 号がオンラインジャーナルとして J-STAGE にて刊行される予定です。両誌とも電子版で公開しており、世界に向けて発信しています。あえて申し上げますと、弊所の組織規模で、両誌を発刊することは決して簡単なことではありません。それでもなお、世界と島嶼地域研究の一翼を担う研究施設として、継続的な発刊に尽力したいと思っています。

2022 年度は専任教員 5 名（教授 3 名、准教授 1 名、講師 1 名）で組織運営にあたりました。また、他学部から本研究所の研究や運営に参画している 25 名（2022 年度）の併任教員の尽力によって、研究所の活動は支えられています。こうした全学的な協力体制によって、研究所としての実績を積み重ねることができています。

継続的に申し上げておりますが、多様で複雑な社会課題を抱えた島嶼という地域を研究対象とするにあたり、トランスディシプリナリー（超学際）な研究態度が必要と考えています。複数の学問分野の理

論や方法論を統合し、さらに非専門家（地域住民等）の島嶼地域における経験知や生活知をも統合していくことで、島嶼の実際と将来を追究できると考えます。多分野・多組織による連携を通して、「島嶼地域科学」の確立に向けて邁進する所存です。引き続き島嶼地域科学研究所に対するご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

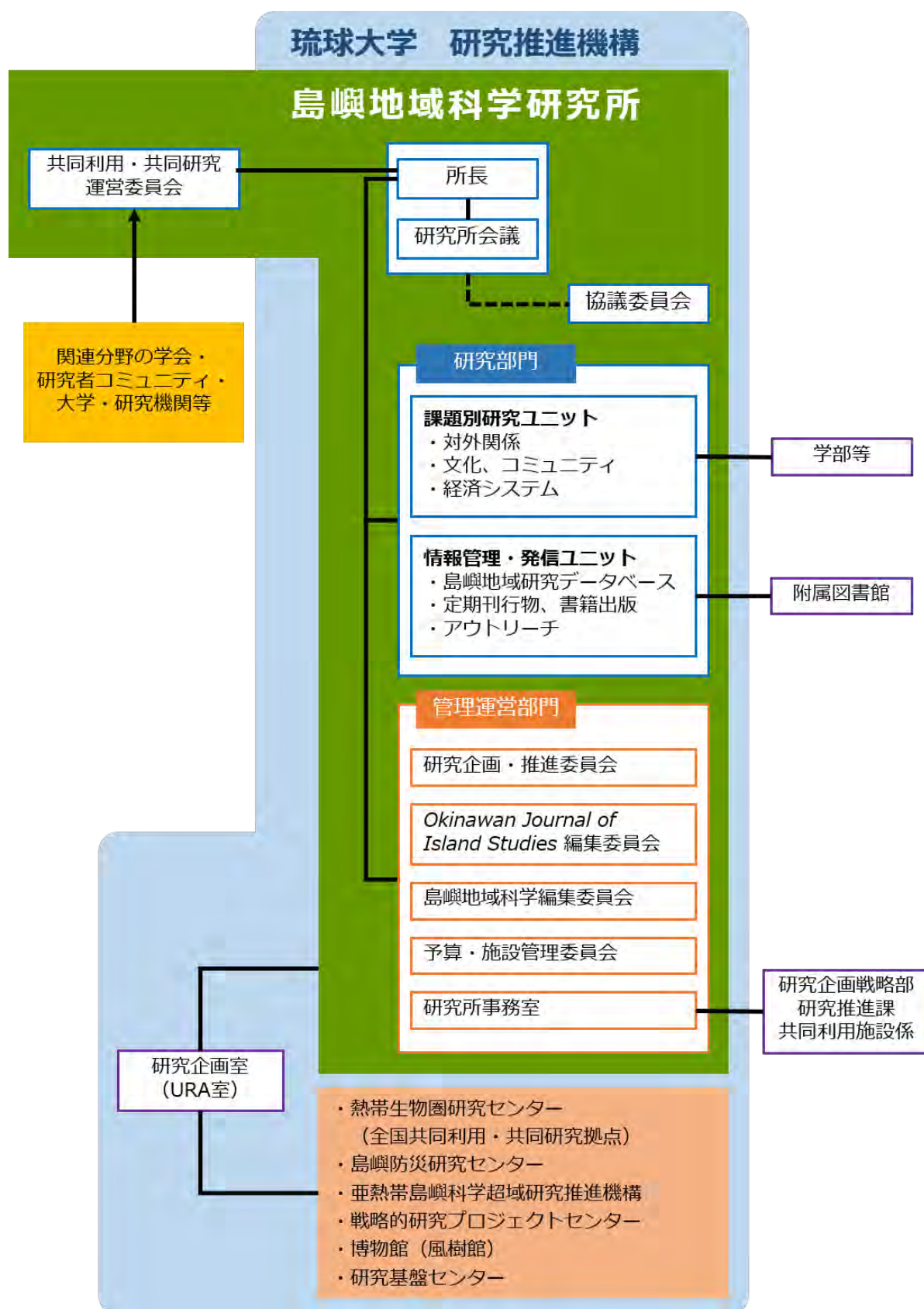
2023 年 10 月 1 日

国立大学法人 琉球大学
研究推進機構 島嶼地域科学研究所
所長 波多野 想

I . 組 織

1. 組織構成図
2. 運営組織
3. 構成員

1. 組織構成図



2. 運営組織

(1) 研究所会議

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 議長
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／副所長・教授）
池上 大祐（国際地域創造学部／准教授）
喜納 育江（国際地域創造学部／教授）
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授）
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授）
宮内 久光（国際地域創造学部／教授）
山極 海嗣（島嶼地域科学研究所／講師）

(2) 所内委員会組織

共同利用・共同研究 運営委員会

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 1号委員・委員長
鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 2号委員
松崎 吾朗（琉球大学熱帯生物圏研究センター／教授） 3号委員
河合 溪（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター／副センター長・教授） 4号委員
小嶋 洋輔（名桜大学環太平洋地域文化研究所／所長・教授） 4号委員
中俣 均（法政大学文学部／教授） 4号委員

任期：2022年4月1日～2024年3月31日

協議委員会

波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 1号委員・委員長
藤田 陽子（島嶼地域科学研究所／副所長・教授） 2号委員
宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 3号委員
本村 真（人文社会学部／教授） 4号委員
越智 正樹（国際地域創造学部／教授） 4号委員
山根 清宏（教育学部／准教授） 4号委員
杉浦 誠（理学部／准教授） 4号委員
小林 潤（医学部／教授） 4号委員
金城 寛（工学部／教授） 4号委員
大田 伊久雄（農学部／教授） 4号委員

任期：2022年4月1日～2024年3月31日

Okinawan Journal of Island Studies 編集委員会

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所／准教授） 編集長
波多野 想（島嶼地域科学研究所／所長・教授） 編集委員
宮國 薫子（国際地域創造学部／准教授） 編集委員
山里 絹子（国際地域創造学部／准教授） 編集委員
Timothy Kelly （名桜大学非常勤講師） 編集委員

『島嶼地域科学』編集委員会

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所／教授） 編集長
宮内 久光（国際地域創造学部／教授） 編集委員
當山 奈那（人文社会学部／准教授） 編集委員

3. 構成員

(1) 専任・併任教員

役職/氏名	専門分野	所属/職名
所長 (Director)		
波多野 想 (So Hatano)	建築史学・文化遺産学・ ランドスケープ研究	島嶼地域科学研究所/教授
副所長 (Associate Director)		
藤田 陽子 (Yoko Fujita)	環境経済学	島嶼地域科学研究所/教授
専任教員 (Full-time Faculty)		
鳥山 淳 (Atsushi Toriyama)	沖縄現代史	島嶼地域科学研究所/教授
宜野座 綾乃 (Ayano Ginoza)	アメリカ研究・ジェンダー学・ 軍事主義の文化研究	島嶼地域科学研究所/准教授
山極 海嗣 (Kaishi Yamagiwa)	考古学・人類学	島嶼地域科学研究所/講師
併任教員 (Concurrent Faculty)		
池上 大祐 (Daisuke Ikegami)	西洋史学・地域史と戦争記憶	国際地域創造学部/准教授
石原 昌英 (Masahide Ishihara)	社会言語学・言語政策	国際地域創造学部/教授
稲村 務 (Tsutomu Inamura)	社会人類学・比較民俗学	国際地域創造学部/教授
大島 順子 (Junko Oshima)	地域・環境教育論	国際地域創造学部/准教授
大湾 知子 (Tomoko Owan)	成人・がん看護学	医学部/准教授
瀬口 浩一 (Koichi Osoguchi)	財政学	国際地域創造学部/教授
越智 正樹 (Masaki Ochi)	観光社会学・農村社会学・地域社会学	国際地域創造学部/教授
漢那 洋子 (Yoko Kanna)	光化学・有機物理化学	理学部/准教授
喜納 育江 (Ikue Kina)	アメリカ文学・ジェンダー研究	国際地域創造学部/教授
金城 ひろみ (Hiromi Kinjo)	中国語学	人文社会学部/准教授
小林 潤 (Jun Kobayashi)	国際保健	医学部保健学科/教授
杉村 泰彦 (Yasuhiko Sugimura)	農業経済学	農学部/教授
鈴木 規之 (Noriyuki Suzuki)	国際社会学	人文社会学部/教授
淡野 将太 (Syota Tanno)	教育心理学	教育学部学校教育/准教授

當山 奈那 (Nana Tohyama)	琉球語学	人文社会学部／准教授
内藤 重之 (Shigeyuki Naito)	農業経済学	農学部／教授
名護 麻美 (Asami Nago)	文化人類学	グローバル教育支援機構／特命講師
野入 直美 (Naomi Noiri)	社会学	人文社会学部／准教授
廣瀬 孝 (Takashi Hirose)	自然地理学・水文地形学	国際地域創造学部／教授
古川 卓 (Takashi Furukawa)	臨床心理学	グローバル教育支援機構／教授
宮内 久光 (Hisamitsu Miyauchi)	人文地理学	国際地域創造学部／教授
宮里 厚子 (Atsuko Miyazato)	ヨーロッパ文化 フランス文学	国際地域創造学部／教授
本村 真 (Makoto Motomura)	地域福祉学	人文社会学部／教授
矢野 恵美 (Emi Yano)	刑法	大学院法務研究科／教授
山里 絹子 (Kinuko Yamazato)	アメリカ研究	国際地域創造学部／准教授

(2) 客員研究員

氏名	所属	職名	受入教員	期間
我部 政明 (Masaaki Gabe)	琉球大学	名誉教授	藤田 陽子	2022/4/1- 2023/3/31
狩俣 繁久 (Shigehisa Karimata)	琉球大学	名誉教授	當山 奈那	2022/4/1- 2023/3/31
土井 智義 (Tomoyoshi Doi)	明治学院大学 国際平和研究所	助手	鳥山 淳	2022/4/1- 2023/3/31
佐藤 崇範 (Takanori Satoh)	琉球大学 島嶼地域科学研究所	技術補佐員	波多野 想	2022/4/1- 2023/12/31
Tiara R. Naputi	University of California, Irvine	Assistant Professor	宜野座 綾乃	2022/7/10- 2022/7/25
Aaron Sherman Hopes	Stanford University	Ph.D. Candidate	宜野座 綾乃 波多野 想	2022/7/1- 2023/3/31

Ⅱ．研究事業等

1. 研究プロジェクト・事業
2. 公募型共同研究・個人型共同利用
3. 出版物
4. 研究成果の発信と普及

1. 研究プロジェクト・事業

(1) 日本学術振興会 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業

『対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化』

(2020～2022 年度)

事業概要

本研究所は、日本学術振興会の『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（領域開拓プログラム）に採択され、「対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化」の取り組みを 2020 年度より開始した。日本学術振興会の同事業は、「①諸学の密接な連携によりブレイクスルーを生み出す共同研究、②社会的貢献に向けた共同研究、③国際共同研究を推進するため」のものであり、なかでも領域開拓プログラムは「異なる学問分野の研究者の参画を得て、新たな研究領域への予想外の飛躍をもたらすような課題の追求や方法論の継続的な改良を目指す」ものである（詳細は、<https://www.jsps.go.jp/kadai/>を参照のこと）。

これに対して、本研究所は島嶼の劣位性ではなく、多様性・結節性・独自性という優位性概念によって島嶼に新たな価値観を付与することで、従前の島嶼地域研究にパラダイムシフトをもたらし、地域課題を自律的に解決し持続的に発展するための学術的方法論を創出することを目指した。特に、研究者による学術的調査とそれへの地域（住民と行政）の直接的関与に基づくアーカイブズを形成し、それを地域住民、行政、研究者が協働し対話する動態的プラットフォームとして稼働させることで、島嶼の知を意識的に結集し地域課題の解決に導く方法論の構築に向けた調査研究と議論を積み重ねてきた。

プロジェクトメンバー

波多野 想（島嶼地域科学研究所/教授）

佐藤 崇範（島嶼地域科学研究所/特命助教）

藤田 陽子（島嶼地域科学研究所/教授）

鳥山 淳（島嶼地域科学研究所/教授）

宜野座 綾乃（島嶼地域科学研究所/准教授）

山極 海嗣（島嶼地域科学研究所/講師）

事業予算額

2020 年度 2,847 千円

2021 年度 5,850 千円

2022 年度 5,850 千円

2023 年度以降の展開

本事業は、2022 年度をもって最終年度を迎えた。しかし「研究者による学術的調査とそれへの地域（住民と行政）の直接的関与に基づくアーカイブズを形成し、それを地域住民、行政、研究者が協働し対話する動態的プラットフォームとして稼働させる」とは、大学と地域が持続的な関係を構築し、継続的な協働を目指すことではじめて成立しえるものである。そこで、2023 年度以降は、さらなる外部資金の獲得等を通じて、地域との関係を継続することを考えている。

2. 公募型共同研究・個人型共同利用

島嶼地域科学研究所では、島嶼地域の研究に取り組む研究者とそのアイデアを広く募り、多様な島嶼地域研究を展開するための共同利用・共同研究を推進している。2016 年度に公募型共同研究（複数名による共同研究、国内および海外）を開始し、加えて 2018 年度より個人型共同利用（個人による調査研究）を進めてきた。これらの取組は島嶼研究の国内外における強化と、同研究の世界的拠点としての役割を本研究所が担うことを目指すものである。2020 年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み募集を見合わせたが、それまでに、公募型共同研究総計 26 件（継続を含む）、個人型共同利用総計 5 件を採択してきた。

2021 年度において、新型コロナウイルス感染状況は予断を許すものではなかったものの、学外研究者に本研究所を拠点に研究活動に従事していただく個人型共同利用（個人による調査研究）の実施は可能と判断し、その募集のみ再開した。その結果、3 件の研究課題を採択した。さらに 2022 年度は、1 件の研究課題を採択した。

さらに、公募型共同研究の再開も可能と判断し、2022 年度には 1 件の研究課題を採択した。

新型コロナウイルスに対する配慮は必要であるものの、2022 年度において個人型共同利用と公募型共同研究の両研究課題を採択できたことは、島嶼地域研究の本格的再開に向けた良いきっかけであったと考える。

2022 年度採択課題一覧

公募型共同研究（*は研究代表者）

南西諸島および三重県答志島等の島嶼における擬制親子慣習と現代児童福祉のありようからみた子育てに関するコミュニティ・システムの研究

白井 千晶*（静岡大学）、有井 春香（北海道教育大学）、磯部 美里（国際ファッション専門職大学）、梅津 綾子（南山大学）、中谷 純江（鹿児島大学）

個人型共同利用

沖縄における子どもの貧困対策の成果に関する教育社会学的研究－中卒無業者支援をめぐる教員たちへのインタビュー調査から

糸数温子（一橋大学大学院）

3. テーマ設定型共同研究

島嶼地域科学研究所では、2022 年度より、「テーマ設定型共同研究」をプロジェクトとして設置し、その活動を開始した。

公募型共同研究および個人型共同利用は、沖縄やアジア太平洋地域を含む世界の島嶼地域の自律的・持続的発展に資する学際的共同研究の推進をその使命とする本研究所として、国内外の島嶼地域研究者との学術ネットワーク強化を目的に実施している。これは原則として、琉球大学以外の研究機関に属する研究者（博士後期課程在学中の大学院生を含む）による研究に対する補助事業である。本事業は、研究所とフィールドとしての沖縄および他の島嶼地域の共同利用および共同研究に大きく資するものである。

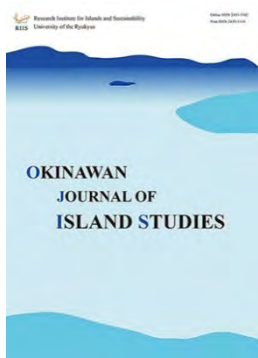
その一方で、研究所専任教員および併任教員と学外研究者の持続的な関係を構築するための活動として、研究所が年度ごとに自らテーマを設定し、そのテーマに沿った研究活動をともに実施することに関心をもつ研究者とともに研究を進める必要があると考える。そして、その関係の新たな構築が大型研究費の獲得に結実することを目指したいと考え、2022 年度より、「テーマ設定型共同研究」を開始した。

2022 年度はテーマを、「近代セメント瓦の分析を通じた島嶼型文化・社会形成の関係論的包括研究」と設定した。セメント瓦は、日本本土で製作された後に日本統治下の台湾へ技術移転され、さらにそこから琉球列島（沖縄諸島や宮古・八重山諸島）へと展開した建築材料である。このセメント瓦について、地域（台湾・琉球）と分野（建築史・歴史・物質文化研究・災害史・ランドスケープ・流通経済・科学分析など）を横断・融合的に研究することで、島嶼を包括的に科学する研究の構築と先端的な成果の獲得を目指した。

4. 出版物

(1) 定期刊行物（ジャーナル・学術雑誌）

Okinawan Journal of Island Studies (OJIS), Vol. 4



本誌は、人文・社会科学を中心とした国内外の島嶼や島嶼性に着目した英語による学術論文と書評を募集している。専門分野ごとに国内外の査読者による厳密な査読の後、優れた論文を掲載することで、島嶼地域科学の学術分野への国際的な寄与を目指している。フォーラムでは、インタビュー、研究ノート、詩や散文も掲載する。また、より多くの読者との議論の場を形成する目的で、完全オープンアクセスにより公開した。

第4号は、通常公募に加え、ゲストエディターに [Evangelia Papoutsaki](#) (SICRI 共同代表), [Tiara R. Na'puti](#) (カリフォルニア大学アーバイン校), [Marina Karides](#) (ハワイ大学マノア校)をお迎えし、*OJIS* 編集長と共同編集したスペシャルテーマ“Island Activisms”の投稿原稿を査読し掲載した。ゲストエディターのご尽力もあり、本号は、研究論文6本、フォーラム9本、インタビュー2本、書評8本の合計25本の投稿から構成された内容となっている。

目次は以下の通りである。なお、投稿募集や投稿規定については島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している (<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis>)。

OJIS Volume 4, Number 1

Papers

[“Zmiinyi Ostrov \(Snake Island\), Wartime Media Coverage and the Ukrainian-Russian Conflict”](#)

Philip Hayward and Christine Kearney

<https://doi.org/10.24564/0002019647>

[“Repositioning Pitcairn’s Tapa: Detecting the Voices of the Forgotten Women of Bounty”](#)

Donald Patrick Albert and Matthew Purifoy

<https://doi.org/10.24564/0002019648>

OJIS Volume 4, Number 2

Special Issue on Island Activisms

Editors: Ayano Ginoza (*OJIS* Editor), Evangelia Papoutsaki, Marina Karides,
and Tiara R. Na'puti (Guest Co-editors)

Editorial Note (Attached to this email)

Tiara R. Na'puti, Marina Karides, Ayano Ginoza, Evangelia Papoutsaki

i-v

<https://doi.org/10.24564/0002019892>

Papers

“‘La langue vient de la musique’: Acadian Song, Language Transmission, and Cultural Sustainability on Prince Edward Island”

Meghan C. Forsyth

1-26

<https://doi.org/10.24564/0002019735>

“Voice of the Voiceless”: The Pacific Media Centre as a Case Study of Academic and Research Advocacy and Activism”

David Robie

27-52

<https://doi.org/10.24564/0002019736>

“My Words Have Power: The role of Yuri Women in Addressing Sorcery Accusation-Related Violence in Simbu Province of Papua New Guinea”

Dick Witne Bomai, Verena Thomas, Jackie Kauli, and Christina Spurgeon

53-70

<https://doi.org/10.24564/0002019737>

“‘La Pause Décoloniale’: Women Decolonizing Kanaky One Episode at a Time”

Anaïs Duong-Pedica

71-88

<https://doi.org/10.24564/0002019738>

Forum Essays

“Becoming an Ally: Moving from Knowing toward Understanding”

Gwyn Kirk

109-116

<https://doi.org/10.24564/0002019684>

“Bonds of Island Activism among CHamoru and Filipino Women on Guåhan”

Tabitha Espina and Josephine Faith Ong

117-121

<https://doi.org/10.24564/0002019685>

“Young Islanders Conserving Their Large Ocean State and Beyond”

Francielle Lacle

122-129

<https://doi.org/10.24564/0002019686>

“Islander Activisms and Resistances: Any Role for Resiliences and Vulnerabilities?”

Ilan Kelman

130-143

<https://doi.org/10.24564/0002019687>

“Famalão'an in Film – Women in Film Across Islands”

Sylvia C. Frain

144-155

<https://doi.org/10.24564/0002019688>

“Oceanic Activism: A Talanoa on Land, Love, and Resistance”

Kēhaulani Vaughn, Brandon J. Reilly, Alfred Peredo Flores, and Juliann Anesi

156-162

<https://doi.org/10.24564/0002019689>

“Pacific Seasonal Workers’ Health and Health Care access in Australia: An Ethnographic Study in Regional Queensland”

Brenda Cangah

163-173

<https://doi.org/10.24564/0002019690>

“A Convergence of Hands and Waters Weaving Relations and Resistances”

Karin Louise Hermes

174-181

<https://doi.org/10.24564/0002019691>

“Can a Rice Ball Be a Source of Food Activism?”

Francesc Fusté-Forné

182-188

<https://doi.org/10.24564/0002019692>

Curated Interviews

“The Island Feminisms Project: Imagined Through Social Justice and Praxis”

Marina Karides and Noralis Rodríguez-Coss

189-197

<https://doi.org/10.24564/0002019693>

“An Island Conversation with Vehia Wheeler and Anaïs Duong-Pedica: Unsettling Knowledge Production about/in the French-Colonized Pacific”

Vehia Wheeler and Anaïs Duong-Pedica

198-217

<https://doi.org/10.24564/0002019694>

Book Reviews

Our Sacred Māori Voices. Edited by Kelli Te Maiharoa and Adrian Woodhouse. Otago Polytechnic Press, 2022.

Hinekura Smith

89-90

<https://doi.org/10.24564/0002019674>

Placental Politics: CHamoru Women, White Womanhood, and Indigeneity under U.S. Colonialism in Guam. By Christine Taitano DeLisle. University of North Carolina Press, 2021.

Francine M.S.N. Naputi

91-93

<https://doi.org/10.24564/0002019677>

Peace Action: Struggles for a Decolonised and Demilitarised Oceania and East Asia. Edited by Valerie Morse. Left of the Equator Press, 2022

David Robie

94-96

<https://doi.org/10.24564/0002019678>

Sweat and Salt Water: Selected Works. By Teresia Kiuea Teaiwa. University of Hawaii Press, 2021.

Tarisi Vunidilo

97-99

<https://doi.org/10.24564/0002019679>

No Country for Eight-Spot Butterflies. By Julian Aguon. Astra house, 2022.

Samantha Barnett

100-101

<https://doi.org/10.24564/0002019680>

Suva Stories: History of the Capital of Fiji. Edited by Nicholas Halter. The Australian National University, 2022.

Usha Sundar Harris

102-103

<https://doi.org/10.24564/0002019681>

Polynesia 900-1600: An Overview of the history of Aotearoa, Rēkohu and Rapa Nui. By Madi Williams. Canterbury University Press, 2021.

Evangelia Papoutsaki

104-105

<https://doi.org/10.24564/0002019682>

Islands: Searching for Truth on the Shoreline. By Mark Easton. Biteback Publishing, 2022.

Henry Johnson

106-108

<https://doi.org/10.24564/0002019683>



『島嶼地域科学』は島嶼地域科学研究所が発行する査読付きのオープンアクセスの学術雑誌である（J-stageにて公開）。本誌では島嶼に関する様々な研究についての論文や研究ノート、資料紹介といった原稿を幅広く募集し、1年に1回刊行している（掲載言語は日本語）。投稿募集の案内、および投稿規定などについては島嶼地域科学研究所のホームページに掲載している（<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi>）。

2022年度は、2022年6月に第3号を発行した。目次は以下の通りである。本号についてはWeb上で閲覧が可能である

（<https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/jrsi/jrsi03>）。

『島嶼地域科学』第3号

研究論文

加藤 潤三・前村 奈央佳

「海外移民に対する沖縄県民の受容態度とその規定因の検討」

宮崎 早季

「ハワイ日系人の戦時強制立ち退き・収容・抑留記憶の継承の試み－1988年～2022年の「追憶の日」イベントの変遷－」

秋山 かおり

「ハワイの戦争捕虜収容所における沖縄文化の継承と創造－歌と芝居の事例から－」

宮里 厚子

「1855年におけるフランス人宣教師の琉球王国への来航と滞在に関する研究」

下岡 絵里奈

「19世紀中葉の琉球におけるフランス人宣教師と語学学習－『琉球王国評定所文書』を中心に－」

研究ノート

波名城 翔

「離島自治体における自治体外自殺者の特徴」

5. 研究成果の発信と普及

(1) 研究資源データベース

島嶼地域科学研究所では、2018 年度より、島嶼地域科学を推進する過程で設定する重点課題を軸に、①学術情報・資料の収集・整理を行い研究資源化すること、②それらをデジタル化・データベース化し、ウェブ等で公開することで、多様な研究者からのアクセスを容易にすること、③「研究資源」及びそこから新たに得られた知見を地域社会に還元すること、を目的として、ウェブサイトで「研究資源データベース」の公開を始めた。2022 年度も引き続き公開を継続している。

琉球大学 UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
島嶼地域科学研究所
Research Institute for Islands and Sustainability

お問い合わせ サイト

キーワード

研究所概要 About RIIS | 研究プロジェクト Research Projects | 共同利用・共同研究 Research Collaboration

学術情報・資料 / Academic Resources

学術情報・資料 / Academic Resources

研究資源データベース / Research Resource Database

沖縄関係外交資料コレクション / Okinawa Diplomatic Resources Collection

↳ 沖縄関係外交史料館資料データベース / Okinawa Diplomatic Archival Document Database

沖縄関係外交史料館資料データベース

シマジマのしまくとうば

シマジマのしまくとうば
危機的な状況にある言語・方言に関する研究

ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵の南洋群島関係資料
“Tochi kankei shorui sonota” 収録タイトルリスト

(2) 共通教育科目「島嶼地域科学入門」(後学期・水曜日 1限)

島嶼地域科学研究所では各年度の後学期に共通教育科目の授業を提供している。本授業は複数の学問分野の専門家によるオムニバス講義で実施している。2022年度は新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえリモート配信による授業を提供した。授業内容は以下の通りである。

授業概要

琉球列島などの小規模の島々からなる島嶼地域は、大陸部の地域や大国の視点からは周縁や辺境の存在として位置づけられる傾向にある。一方で、島嶼にフォーカスした様々な研究によって、島嶼地域ならではの環境や人間文化の多様性、あるいはそれに基づく独自の社会的課題や将来性も明らかになってきている。近年の多様な視点や価値観の共存を必要とする社会において、島の社会もまた島嶼固有の特性の理解に基づく自律的かつ持続的な社会の展開が求められている。本授業ではこうした島嶼地域での社会の成り立ちや現状・課題を理解するための基礎的な知識を様々な研究分野から習得し、「島嶼」の科学的な理解に基づいて島嶼社会の将来を考え・創造する力を獲得することを目的とする。

授業内容(各回の担当教員と授業テーマ)

第01回: 10月05日 (Microsoft Teams 配信)

山極 海嗣 「登録および講義内容等のガイダンス」

第02回: 10月12日 (Microsoft Teams 配信)

波多野 想 「イントロダクション: 島嶼地域科学とは何か」

「第1テーマ: 歴史と記録からみた島嶼地域」

第03回: 10月19日 (Microsoft Teams 配信)

山極 海嗣 「人類史からみた島嶼地域と島嶼性」

第04回: 10月26日 (Microsoft Teams 配信)

鳥山 淳 「日本軍から見た島嶼(奄美と沖縄)」

第05回: 11月02日 (Microsoft Teams 配信)

池上 大祐 「太平洋島嶼現代史という視点」

「第2テーマ: 人の移動と交流からみた島嶼地域」

第06回: 11月09日 (Microsoft Teams 配信)

波多野 想 「島嶼における交流人口と関係人口の創出と拡大」

第07回: 11月16日 (Microsoft Teams 配信)

山里 絹子 「砂糖プランテーションをめぐる人の移動と島嶼性」

第08回: 11月30日 (Zoom 配信)

喜納 育江 「島嶼における言語と文学(沖縄・ハワイ・台湾)」

第09回: 12月14日受講者参加型ディスカッション (Microsoft Teams 配信)

「第3テーマ: 様々なリスクからみた島嶼地域」

第10回: 12月21日 (Microsoft Teams 配信)

藤田 陽子 「島嶼における環境リスクと経済」

第 11 回：01 月 04 日（Microsoft Teams 配信・録画提供）

伊東 孝 「島嶼地域における地盤防災の将来」（＊録画提供）

第 12 回：01 月 11 日（Microsoft Teams 配信）

小林 潤 「アジア・太平洋島嶼の健康とその課題」

「第 4 テーマ：ジェンダーからみた島嶼地域」

第 13 回：01 月 18 日（Zoom 配信）

宜野座 綾乃「島嶼地域における軍事主義の文化とジェンダー」

第 14 回：01 月 25 日（Microsoft Teams 配信）

本村 真「戦後沖縄の混乱期における子どもの福祉に関連したジェンダー問題とその解決実践」

第 15 回：02 月 01 日 受講者参加型ディスカッション（Microsoft Teams 配信）

Ⅲ. 教員の研究・教育活動と成果

1. 研究業績
2. 教育活動
3. 社会連携

1. 研究業績（専任・併任教員：2022 年 4 月～2023 年 3 月）

＊日英併記、50 音順、専任・併任教員名に下線を付す

【原著論文】

1. 石原昌英 (2023)「郷土芸能としまくとぅば継承－高校の郷土芸能部での取組」『シマジマのしまくとぅば 令和 4 年度消滅の危機にある方言の記録作成および啓発活動』、pp.9-18.
2. Inamura, T. (2023) “Traditional Knowledge” and “Chinese Traditional Medicine” concerning ABS: Political Mistranslation by Chinese Government and Japanese Government. 『地理歴史人類学論集』第 12 号 pp109-115.
3. 瀬口浩一(2023)「数理・データサイエンス・AI 教育の展開と本学の取組」『琉球大学教育センター報』第 25 号、pp87- 91
4. 瀬口浩一, 上間美優 他(2022)「ポストコロナ時代に向けた自治体経営の状況と今後の展望」『公庫レポート』(沖縄振興開発金融公庫)、(177) pp1 -74
5. 宜野座綾乃.(2022)「トランスパシフィックな批評的知の連帯に開かれた沖縄戦の系譜に向けて」『女性・戦争・人権』『女性・戦争・人権』学会会誌.21 号.
6. Ginoza, Ayano. (2022) “Archipelagic Feminisms: Critical Interventions into the Gendered Coloniality of Okinawa.” Critical Interventions into the Gendered Coloniality of Okinawa.” *Journal of Critical Ethnic Studies*.
7. Crystal Amiel M Estrada, Ernesto R. Gregorio Jr., Jun Kobayashi. (2022) Resilience of community in the early phase of the COVID-19 pandemic in the Philippines 3.2: 133-145, *International Journal of Okinawan Studies*, https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/publication/ojis/ojis_3_2.
8. Rie Ogasawara, Hiroshi Yamanaka, Jun Kobayashi, Sachi Tomokawa, Elli Sugita, Takanori Hirano, Mika Kigawa, Akihiro Nishio, Takeshi Akiyama, Eun Woo Nam, Ernesto R. Gregorio Jr., Crystal Amiel M. Estrada, Pimpimon Thongthien, Kethsana Kanyasan, Bhimsen Devkota, Jeudyla Hun, Yinghua Ma, Beverley Anne Yamamoto. (2022) Status of School Health Programs in Asia: National Policy and Implementation. *Pediatrics International* 64, e15146, 2022, <https://doi.org/10.1111/ped.15146>.
9. Yuko Muramatsu-Noguchi, Daisuke Nonaka, Sengchanh Kounnavong, Jun Kobayashi. (2022) Association Between Socio-Economic Status and the Presence of Soap at Handwashing Facilities in Lao People's Democratic Republic: A Cross-Sectional Study. *Asia Pacific Journal of Public Health*, 34(4), 423-426. <https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/10105395211072478>
10. Hiroshi Sekiguchi, Rie Takeuchi, Yoko Sato, Tsuyoshi Matsumoto, Jun Kobayashi, Takehiro Umemura. (2022) Can Homecare Chronic Respiratory Disease Patients with Home Oxygen Treatment (HOT) in Southern Okinawa, Japan Be Evacuated Ahead of the Next Anticipated Tsunami? *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 19(9), <https://www.mdpi.com/1660-4601/19/9/5647/html>
11. Masayuki K Sakata, Megumi Sato, Marcello Otake Sato, Tomoe Watanabe, Honami Mitsuishi, Tomoyuki Hikitsuchi, Jun Kobayashi, Toshifumi Minamoto. (2022) Detection and persistence of environmental DNA (eDNA) of the different developmental stages of a vector mosquito, *Culex pipiens pallens*. *PLoS One* 10;17(8):e0272653, 2022.

12. 淡野将太・浦内桜・越中康治・Chuang Chi-ching (2022). 小学校の宿題量評定における学年考慮の重要性 琉球大学教育学部紀要, 101, 5-7.
13. 淡野将太 (2022). 心理学の学術誌論文の執筆指導 琉球大学教育学部紀要, 101, 1-4.
14. 島山 淳 (2022)「占領と沖縄基地問題」歴史学研究会（編）『「歴史総合」をつむぐ』、東京大学出版会、pp.30-39。
15. 島山 淳 (2022)「基地建設と島ぐるみ闘争」「日本政府の援助」沖縄県文化財課史料編集班（編）『沖縄県史各論編 7 現代』、沖縄県教育委員会、pp29-38、171-195、267-276。
16. 島山 淳 (2022)「「返還 50 年」の沖縄をどうとらえるか」『歴史地理教育』No.939、歴史教育者協議会、pp54-61。
17. 大城健, 内藤重之, 杉村泰彦(2022)「地方自治体独自の園芸産地を対象とした産地指定制度の施策目的と制度設計および施策効果」『食農資源経済論集』73 巻(2)、pp31-42。
18. 内藤重之, 杉村泰彦, 矢野泉(2022)「卸売市場法改定に伴う取引ルールの変更等に関する中央卸売市場の対応」『農業市場研究』第 31 巻第 4 号、pp.36-42。
19. 野入直美 (2023)「語りを一冊の本にすること—生活史調査が書籍になるまで—」『人間科学』第43号、pp15-33.
20. 波多野想・山極海嗣・武島早希 (2023)「近現代の琉球諸島および台湾におけるセメント瓦」『東南アジア考古学』第 42 号、pp.73-84。
21. Fujita, Y., Miyakuni, K. and Marino, L., 2022, Economic Value of Coral Reefs in Palau, *New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives* 56, 329-340.
22. Miyauchi H. 2022. Trends in Japanese Island Studies Since the Establishment of Modern Geography. Hiraoka A., Suyama S., Miyauchi H. and Sukeshide T. (ed). 2022. *Insularity and Geographic Diversity of the Periheral Japanese Islands*. Springer: 10-20.
23. Miyauchi H. 2022. Improving Transport Infrastructure and Accessibility on Remote Islands in Japan. Hiraoka A., Suyama S., Miyauchi H. and Sukeshide T. (ed). 2022. *Insularity and Geographic Diversity of the Periheral Japanese Islands*. Springer: 55-64.
24. Miyauchi H. 2022. Transformation of Zamami-Jima into a Tourist Destination and the Management Style of Marine Leisure Shop. Hiraoka A., Suyama S., Miyauchi H. and Sukeshide T. (ed). 2022. *Insularity and Geographic Diversity of the Periheral Japanese Islands*. Springer: 220-230.
25. 宮里厚子(2022)「1855 年におけるフランス人宣教師の琉球王国への来航と滞在に関する研究」『島嶼地域科学』第 3 号、pp.59-74。
26. 矢野恵美 (2022)「ジェンダーの視点から見た京都コンGRESと第 4 次犯罪被害者等基本計画—SDGs、ジェンダー主流化と被害者政策—」『被害者学研究』第 31 号、pp.61-73。(依頼論文)
27. 矢野恵美 (2022)「日本の刑務所における児童虐待加害者の処遇」『亜細亜女性法学』25 号 pp77—85。(査読なし)
28. Hiroaki Aoyama, Kaishi Yamagiwa, Wataru Taira, Kon Takeshi. (2022) A new perspective on the evolution of “Kawara” roof tiles in Ryukyu: A multidisciplinary non-destructive analysis of roof tile transition at Shuri Castle, Ryukyu Islands, Japan. *PLOS ONE* 17(11) e0277560-e0277560.

【書籍】（単著・分担執筆含む）

1. 大湾知子(2022)『これから自己導尿をはじめる方へ』富士システムズ株式会社, pp1-14
2. 杉村泰彦(2022)「コロナ禍の食と農」内藤重之(編著)、『第2章 統計にみる食料消費の変化』、筑波書房、pp.24-42。
3. 杉田映理、西尾彰泰、小林 潤 (2022)「住民参加」、日本国際保健医療学会編『実践グローバルヘルス』、176-180 杏林書院 東京 2022。
4. 杉村泰彦(2022)「食料・農産物の市場と流通（講座 これからの食料・農業市場学3）」、木立真直編・坂爪 浩史（編）『第12章 「物流危機」と中小規模卸売市場の集荷物流問題』、筑波書房、pp.215-230。
5. 鈴木規之、崎濱佳代編著（2022）『ホスト社会沖縄と日系人ーラテン文化の資本の架橋性ー（平成30年度～令和4年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書）琉球大学人文社会学部
6. 鈴木規之編著（2022）『沖縄の若者/若者からみた沖縄ー琉球大学生のリアリティーー琉球大学人文社会学部 社会学プログラム社会学コース「社会学実習」2021年度調査報告書』琉球大学人文社会学部
7. 内藤重之(2022)「世界の食料・農産物と日本の社会・経済への影響」内藤重之(編著)『コロナ禍の食と農』、筑波書房、pp.1-23。
8. 内藤重之(2022)「農業分野における行政支援」内藤重之(編著)『コロナ禍の食と農』、筑波書房、pp.62-81。
9. 内藤重之(2022)「6次産業化に取り組む農業経営への影響とその対応」内藤重之(編著)『コロナ禍の食と農』、筑波書房、pp.82-99。
10. 芥川舞衣、内藤重之(2022)「観光農園への影響とその対応」内藤重之(編著)『コロナ禍の食と農』、筑波書房、pp.100-116
11. 内藤重之(2022)「体験教育旅行を受け入れる農村への影響とその対応」内藤重之(編著)『コロナ禍の食と農』、筑波書房、pp.117-134
12. 川間琉太郎、内藤重之(2022)「農産物直売所への影響とその対応」内藤重之(編著)『コロナ禍の食と農』、筑波書房、pp.135-153。
13. 内藤重之(2022)「農商工連携に取り組む事業者への影響とその対応」内藤重之(編著)『コロナ禍の食と農』、筑波書房、pp.154-175。
14. 内藤重之(2022)「肉用牛産地への影響とその対応」内藤重之(編著)『コロナ禍の食と農』、筑波書房、pp.176-191。
15. 内藤重之(2022)「6次産業化の現状と課題」福田晋・藤田武弘(編著)『食と農の変貌と食料供給産業（講座 これからの食料・農業市場学4）』、筑波書房、pp.14-33
16. 野入直美・藤浪海・眞壁由香編著（2022）『わったー世界のウチナアンチュ！ー海外県系人の若者たちの軌跡』琉球新報社
17. Hiraoka A., Suyama S., Miyauchi H. and Sukesshige T. (ed). 2022. *Insularity and Geographic Diversity of the Periheral Japanese Islands*. Springer.
18. 矢野恵美 (2022)「暴力とジェンダー」二宮周平・風間孝編『家族の変容と法制度の再構築: ジェンダー/セクシュアリティ/子どもの視点から』法律文化社、pp.239-257。（依頼論文）
19. 山里絹子(2022)「「米留組」と沖縄」山里絹子 著者、集英社新書

20. 山里絹子(2022)「やんばる世界を拓く 沖縄北部地域の〈人の移動〉研究」小川寿美子(編)、沖縄タイムス社、pp.49-57, pp109-118

【その他(資料、解説、雑文、翻訳、新聞・雑誌への投稿等)】

1. 大湾知子 (2022)「感染症対策として日常生活における手洗いのポイント!」『琉球大学環境報告書 Environmental Report 2021』, 琉球大学, 30
2. 大湾知子, 渡真利絹江, 藤田次郎(2022)「沖縄県内病院における看護師による新型コロナウイルス感染症対策」琉球大学, pp 1-6
3. 大湾知子(2022)「感染症とは?感染症対策を一緒に考えましょう!」放送大学沖縄学習センター, pp 1-9
4. 大湾知子(2022)「骨盤底筋訓練」琉球大学病院, pp 1-4
5. 大湾知子(2022)「病院のどこでも、いつでも感染対策のための手洗い・手指衛生」,琉球大学病院, pp 1-4
6. 大湾知子(2022)「感染管理認定看護師に必要なコミュニケーション能力~アサーティブコミュニケーション&アンガーマネジメント~」沖縄県看護協会, pp 1-12
7. 大湾知子(2022)「怒り解消のアンガーマネジメント」放送大学沖縄学習センター, pp 1-15
8. 大湾知子(2022)「排尿自立指導する排尿ケアチームとしてのアンガーマネジメント」沖縄排尿機能研究会, pp 1-15
9. 大湾知子(2022)「オンラインによる高校訪問」第 21 号琉球大学医学部保健学科同窓会会報, 4
10. 大湾知子(2022)「琉球大学医学部保健学科で学ぶ看護学コースの紹介」2022 年度実施 WEB 説明会 <https://www.youtube.com/watch?v=pxPyzrF4WIM>
11. 大湾知子 (2022)「知って徳する尿失禁予防! 骨盤底筋体操をしてみましょう!」, 骨盤底祭り <https://www.femzonelab.com/training/185/view>
12. 大湾知子 (2022)「排尿・排便の管理~排泄の悩みを解決しよう!~ 公開講座を開催しました」琉球大学医学部保健学科ホームページ, 1-8, 2022 年 4 月 12 日.
13. 大湾知子, 長嶺ふじ子, 富田なお子, 当山悦子, 長嶺寛子, 大湾朝成, 木村成子 (2022)「沖縄県支部活動 ing」コンチネンス Now, 2
14. 大湾知子 (2022)「食中毒と蔓延防止」1-4
15. 大湾知子, 大湾朝成, 当山悦子, 仲西めぐみ, 久場川潤, 伊波義一 (2022)「2021 年度オーガナイザー養成支援公開講座 排尿・排便の管理~排泄の悩みを解決しよう!~」, 1-35
16. Fumuko Shibuya, Dian Puspita Sari, Cut Warnaini, Arina Widdri Rivarti, Rie Takeuchi, Hamsu Kadriyan, Calvin de los Reyes, Jun Kobayashi. (2022) Lessons learned from online qualitative data collection in an international collaborative study during the COVID-19 pandemic, Teacher's effort to cope with conflict in implementing comprehensive sexuality education at secondary schools in Mataram city, Indonesia. *Advances in Health Sciences Research*, 46, 279-287, 2022. <https://doi.org/10.2991/ahsr.k.220206.052>
17. Fahrin Ramadan Andiwijaya, Hamsu Kadriyan, Putu Suwita Sari, Jun Kobayashi, Suryaning Rasyidah, Lalu Hamzi Fikri. Community Resilience in the Time of the COVID-19 Pandemic: A Qualitative Study

on Local Perspectives in the Island of Lombok. *Advances in Health Sciences Research*, 46, 380-382, 2022.
<https://www.atlantis-press.com/proceedings/orlhn-21/125970615>.

18. 鳥山 淳 (2022)「書評 謝花直美著『戦後沖縄と復興の「異音」：米軍占領下復興を求めた人々の生存と希望』『歴史評論』第 875 号、歴史科学協議会、pp95-99。
19. 内藤重之「新たな沖縄振興計画と沖縄農業の未来」農業協同組合新聞、2022 年 5 月 30 日。
20. 廣瀬 孝 (2022) 書評 黒沼善博著『地下ダムと島の環境経済学』、沖縄地理、第 22 号、p. 35。
21. 宮里 厚子(2023)「フランスの新聞に読む『琉球併合』」『琉球大学欧米文化論集』第 67 号、pp.89-100。
22. 山極海嗣 (2022)「話題提供 1 宮古島から：宮古島の人類史からみる島嶼地域における文化多様性とその背景」会誌 ACADEMIA (186) 16-37。
23. 山里絹子(2022)「野入直美、藤浪海、眞壁由香著『わったー世界のウチナーンチュ！海外県系人の若者たちの軌跡』」『沖縄タイムス』2022 年 10 月 15 日（新刊紹介）。

【招待講演】

1. 石原昌英「観光資源としての言語」日本言語政策学会・特定課題研究会「観光地のホスト社会に配慮した言語政策研究」、沖縄・石垣市、2022 年 10 月 29 日。
2. 大島順子「世界自然遺産やんばるにおけるワイルドライフ・ツーリズムの現状と課題」、日本観光研究学会主催国際ウェビナー「日本の動物と観光」、オンライン、2023 年 1 月 19 日。
3. 大湾知子「排尿自立指導する排尿ケアチームとしてのアンガーマネジメント」第 23 回沖縄排尿機能研究会・特別講演、沖縄・那覇、2022 年 11 月 18 日。
4. Suzuki Noriyuki. Keynote Speech, “The formation of Cooperative Network for Bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR” *4th Seminar on Education for Community Development in Southeast Asia: Addressing Educational Challenges in Rural Communities*. Vientiane, Lao P.D.R., October 13, 2022.
5. 當山奈那「琉球列島の言語再活性化と言語記述」北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターセミナー、2022 年 8 月 12 日。
6. 野入直美「語りを紡ぐ」日本オーラルヒストリー学会シンポジウム「語りを一冊に編みあげるまでー野入直美(2021)『沖縄ー奄美の境界変動と人の移動』を手掛かりにー」東京・上智大学、2022 年 6 月 25 日。
7. 野入直美「奄美籍の琉球政府副主席・泉有平とは誰か」奄美共同史研究会例会、鹿児島県・奄美図書館、2022 年 5 月 8 日。
8. 山極海嗣「琉球列島・宮古島にみる島の世界の人類史～生活・文化・社会の”島らしさ”とその変遷～」以心塾講演会 2022 年 8 月 12 日。
9. 山里絹子 (2022)「米軍統治下のアメリカ留学——「米留組」と呼ばれた人々の語りからの考察」、神奈川大学アジア研究センターシンポジウム「アジアとアメリカ帝国のはざまを生きた人々の物語」、神奈川大学みなとみらいキャンパス、2023 年 1 月 17 日。

【学会発表】

1. 石原昌英「権利としての琉球諸語再活性化」琉球継承言語研究会、沖縄・読谷村、2023年3月26日。
2. 大島順子「世界自然遺産地域における気候変動教育としての市民によるフェノロジー調査」、日本環境教育学会第33回年次大会（口頭発表）、東京農工大、2022年8月28日。
3. 大島順子、久高将和「やんばる国立公園における密猟・盗採の管理体制に関する対話の現状と課題」、第134回日本森林学大会（口頭発表）、オンライン、2023年3月27日。
4. 大湾知子、渡真利絹江、涌武悠、宮里実、當山悦子、新崎真由美、高良奈津子、長嶺寛子、南部路治、泉恵一朗、芦刈明日香、斎藤誠一「琉球大学と病院のユニフィケーション多職種で取り組む排尿ケアチームの活動」第134回日本泌尿器科学会、沖縄・西原町、2022年4月23日。
5. 大湾知子「看護師として多職種で取り組む患者への排尿自立指導～看護実践・教育・大学のユニフィケーション～」第193回琉球医学会、沖縄・西原町、2022年10月11日。
6. Jun Kobayashi. Next agenda of Maternal and Child Health in low and middle income country; Preconception care and comprehensive sex education, Symposium, Achieving of SDGs 3: Promoting for Good Health for All, 53th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, September 22-23, 2022, Manila, Philippines.
7. Calvin de los Reyes, Hanae Okamoto, Fumiko Shibuya, Rie Takeuchi, Jun Kobayashi, Overview of Policy Analysis of School Health Policies related to COVID-19 Pandemic in Selected Asia Pacific Countries", Symposium, School Health Promotion in Asia-Pacific Islands, 53th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, September 22-23, 2022, Manila, Philippines.
8. Fumiko Shibuya, Calvin de los Reyes, Rie Takeuchi, Jun Kobayashi, Enabler of School Health Policy Implementation in Low- and Middle-Income Countries. Symposium, School Health Promotion in Asia-Pacific Islands, 53th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, September 22-23, 2022, Manila, Philippines.
9. Noudéhouénou Credo Adelphe Ahissou, Daisuke Nonaka, Calvin de los Reyes, Manami Uehara, Rie Takeuchi, Phongluxa Khampheng, Sengchanh Kounnavong, Jun Kobayashi. Magnitude of wealth and educational level related inequalities in the use of services in Lao People's Democratic Republic before and after the Free MCH policy implementation., Poster Presentation, 53th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, September 22-23, 2022, Manila, Philippines.
10. John Thumbiko Kaunda, Daisuke Nonaka, Calvin de los Reyes, Noudéhouénou Credo Adelphe Ahissou, Jun Kobayashi. Association between perceived threat to COVID19 infection and ART adherence amongst people living with HIV at Mzuzu central Hospital, Northern Malawi. Poster Presentation, 53rd Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, September 22-23, 2022, Manila, Philippines.
11. John Robert C. Medina, Rie Takeuchi, Chris Erwin G. Mercado, Calvin S. de los Reyes, Kim Ian Tiu, Rolando V. Cruz, Melvin DR. Abrigo, Paul Michael R. Hernandez, Fernando B. Garcia, Jr., Mika Salanguit, Ernesto R. Gregorio, Jr., Shin'ya Kawamura, Khew Ee Hung, Masami Kaneko, Daisuke Nonaka, Richard J. Maude, Jun Kobayashi. Spatial and Temporal Distribution of Reported Dengue Cases and Hot Spot Identification in Quezon City, Philippines, 2010-2017. Poster Presentation, 53th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, September 22-23, 2022, Manila, Philippines.
12. Salanguit, M; Gregorio, ER Jr.; Hernandez, PM; Medina, JR; de los Reyes, CS; Takeuchi, R; Kawamura, S;

Kaneko, M; Kobayashi, J. Face and Content Validity and Reliability of an online, Self-Administered Questionnaire for Knowledge, Attitude, and Practices of High School Teachers on Dengue. Poster Presentation, 53th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference, September 22-23, 2022, Manila, Philippines.

13. 小林 潤, 岡本花恵, 渋谷文子, 竹内理恵, 友川幸 アジア太平洋島嶼国の学校保健政策策定のための標準的段階策定の試み 口頭発表 第30回日本健康教育学会 7月23-24日 独協医科大学。
14. 渋谷文子, 小林 潤, 竹内理恵 インドネシア共和国マタラム市の一般教育課程公立高等学校において教師が包括的性教育に関する葛藤を克服するプロセス：質的研究 口頭発表 第30回日本健康教育学会 7月23-24日 独協医科大学
15. 手島祐子, 上野真理恵, 渋谷文子, 友川幸, 小林 潤 学童期を対象とした包括的な健康教育実践のための人材確保と地域社会の連携の在り方：青年海外協力隊活動から得られた教訓を基に ラウンドテーブル 第30回日本健康教育学会 7月23-24日 独協医科大学。
16. 手島祐子, 上野真理恵, 渋谷文子, 友川幸, 小林 潤 学童期を対象とした包括的な健康教育実践のための人材確保と地域社会の連携の在り方：青年海外協力隊活動から得られた教訓を基に ラウンドテーブル 第30回日本健康教育学会 7月23-24日 独協医科大学。
17. Suzuki, N. Development and the Process of Civil Society Formation in Thailand: The Dynamism of “Prachacom” (Community Organizing) *14th International Conference on Thai Studies*. Kyoto, April 29, 2022.
18. Vonxay, P., Suzuki, N. Development in Laos in the era of Globalization: The Role of foreign assistance in contemporary Lao development context, *7th International Conference on Lao Studies*. Melbourne, Australia, November 15-18, 2022.
19. 崎濱佳代, 鈴木規之「ホスト社会沖縄と日系人—ラテン文化資本の架橋性— ～沖縄における南米系日系人と繋がるホスト社会のネットワーク～」第95回日本社会学会大会、大阪・茨木、2022年11月12日。
20. 淡野将太・浦内桜・越中康治 小学校における宿題と国語、算数、理科および社会の成績の関連 日本心理学会第86回大会、東京、2022年9月8日－11日。
21. 淡野将太・浦内桜・越中康治 小学校における宿題と算数の成績の関連 日本教育心理学会第64回総会、オンライン 2022年8月10日－9月10日。
22. 當山奈那「琉球諸語における二重使役構文の述語形式」日本言語学会第164回大会、オンライン、2022年6月18日-19日。
23. 内藤重之, 杉村泰彦, 矢野泉「卸売市場法改定に伴う取引ルールの変更等に関する中央卸売市場の対応」日本農業市場学会2022年度大会、大阪・枚方、2022年7月3日。
24. 森優哉, 杉村泰彦, 内藤重之「沖縄県における花粉交配用ミツバチの生産と取引形態」日本農業市場学会2022年度大会、大阪・枚方、2022年7月3日。
25. 野入直美「台湾—沖縄引揚者の外地就学と戦後就労」日本移民学会冬季研究大会、オンライン、2022年12月11日。
26. 武島早希, 波多野想, 山極海嗣「島嶼地域における対話型地域アーカイブズの創出その4 —宮古島市狩俣地区におけるセメント瓦」日本島嶼学会2022年度沖永良部大会 2022年10月22日。
27. Hirose, T., Nakasone, K., Kawashima, S., Onodera, S. and Saito, M. Sediment yield and sedimentation rate at several settling basins in the northern part of Okinawa Island. 日本地球惑星連合2022年大会

セッション A-HW24, 2022 年 5 月 24 日。

28. 矢野恵美「琉球大学におけるハラスメント防止・対策についての取組」キャンパス・セクシュアル・ハラスメント・全国ネットワーク第 28 回全国大会、全体シンポジウム報告、名古屋、2022 年 8 月 27 日（依頼）
29. 矢野恵美「日本の刑務所における児童虐待被害者の処遇」亜細亜女性法学会、個別報告、オンライン、2022 年 11 月 12 日
30. 矢野恵美「刑事法におけるジェンダー平等」ジェンダー法学会第 20 回学術大会ジェンダー法学会 20 周年記念シンポジウム『ジェンダー法学の過去・現在・未来』報告、東京、2022 年 12 月 3 日（依頼）
31. 矢野恵美「受刑者を親にもつ子どものためにできること ――子どもたちのための冊子づくり ―― の実証研究」日本司法福祉学会第 22 回大会、分科会企画、東京、2022 年 12 月 18 日
32. 石原与四郎, 沖田優香, 北原美優, 成瀬元, 亀島慎吾, 具志堅清大, 片桐千亜紀, 山極海嗣, 小野林太郎, 島袋綾野, 杉原真司, 吉村和久「石垣島の洞窟に記録された大規模津波の堆積物 とその痕跡」、日本地球惑星科学連合 2022 年大会 2022 年 5 月 29 日。
33. 山極海嗣・青山洋昭・平良渉「理化学的分析による首里城採取瓦の研究成果と オープンサイエンスへの展望」第 14 回琉大未来共創フォーラム・首里城再興学術ネットワークシンポジウム 2022 、2022 年 11 月 13 日。
34. 山極海嗣, 亀島慎吾, 具志堅清大, 片桐千亜紀, 小野林太郎, 石原与四郎「石垣島白保 D 洞窟（カラダギ洞窟（仮））の発掘調査速報」沖縄考古学会 11 月定例会 2022 年 11 月 18 日。

【その他】

1. 大湾知子「排尿障害における自己導尿」沖縄・熊本排尿ケアセミナー, 2022 年 6 月 29 日
2. 大湾知子, 當山悦子, 大湾朝成, 比嘉稔, 比嘉康雄, 島袋善俊, 島袋善保, 仲程力, 米里吉則, 上原米和, 蔵元雅一, 東恩納盛男, 津波高志, 佐和田勇人「生活文化のなかにおける沖縄伝統空手と健康～尿失禁対策の骨盤底筋体操～」琉球大学公開講座, 2022 年 9 月 11 日。
3. 大湾知子「自己導尿について」Otsuka 排尿ケアセミナー, 2022 年 10 月 19 日。
4. 大湾知子「医療福祉施設における排泄（排尿・排便）ケアの関わり方」放送大学沖縄学習センター客員教員による公開講演会, 沖縄県立図書館, 2023 年 2 月 19 日。
5. 越智正樹「DMO の社会的役割の概念整理」科研報告会『DMO の社会的役割を考える』（主催：辺境 DMO 研究グループ、共済：（公財）日本交通公社、沖縄・那覇、2022 年 9 月 18 日
6. 金城ひろみ「琉球大学と福建師範大学における国際交流史」、福建師範大学中琉関係研究所創立 25 周年「新思考・新領域・新方法・新チーム―中琉歴史関係研究の新発展」オンライン会議、2022 年 12 月 25 日
7. Suzuki,N. The Formation of Cooperative Network for bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR (JSPS Core-to-Core Program): Introduction of the project *International Seminar on Rural Community Development of Lao PDR Organized by JSPS Core-to-Core Program*. Okinawa, December 10, 2022.
8. Suzuki,N. The Formation of Cooperative Network for bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR: Introduction of the project *International Seminar on The Formation of*

Cooperative Network for bottom-up Approach in Rural Community Development of Lao PDR Organized by JSPS Core-to-Core Program. Vientiane Capital, Lao PDR, March 1, 2023.

9. Suzuki, N. Development and the Process of Civil Society Formation in Thailand: The Dynamism of Prachacom (Community Organizing) *Online International Seminar on The Processes of Civil Society Formations and Development in Thailand (JSPS Fund for the Promotion of Joint International Research, Fostering Joint International Research B)*. Okinawa, March 13, 2023.
10. 當山奈那「琉球諸語の自他動詞と他動性」、沖縄言語研究センター定例研究会、2022 年 4 月 2 日。
11. 鳥山淳「米軍占領沖縄における 1950 年代の政治意識の変遷」武漢大学日本研究所国際シンポジウム（オンライン開催）2022 年 5 月 8 日。
12. 鳥山淳「沖縄現代史における“労働”から持続的・構造的な変化を考える」『沖縄県史各論編 7 現代』刊行記念シンポジウム・戦後 77 年の検証 沖縄県立博物館・美術館、2022 年 10 月 16 日。
13. 鳥山淳「島ぐるみ闘争から復帰まで」沖縄県平和祈念資料館特別講座、2022 年 11 月 23 日。
14. 山極海嗣、亀島慎吾、具志堅清大、金城翼「宮古島ツツピスキアブ洞窟南遺跡における調査概要と検出した文化遺物データの暫定報告」第 1 回洞窟研究会、国立民族学博物館、2022 年 10 月 10 日。
15. 山里絹子 (2022)「土井智義著『米国の沖縄統治と外国人管理』」日本アメリカ史学会 第 55 回例会、2022 年 12 月 17 日、オンライン開催（合評会評者）。
16. 山里絹子 (2022)「戦後沖縄、未来を切り拓いた人々」大阪府立水都国際中学校・高等学校沖縄研修、2023 年 3 月 28 日、（特別講話）。

【表彰・受賞等】

1. 野入直美「第 43 回沖縄タイムス出版文化賞正賞」『沖縄のアメラジアンー移動と＜ダブル＞の社会学的研究』沖縄タイムス、2023 年 2 月 9 日

2. 教育活動（専任教員）

【琉球大学における教育活動：学部教育】

担当者	科目責任者	授業科目等	開講学部等	備考
波多野想	波多野想	ヘリテージツーリズム論・基礎	国際地域創造学部	
波多野想	波多野想	地域・国際実践力演習Ⅰ	国際地域創造学部	
波多野想	波多野想	地域・国際実践力演習Ⅱ	国際地域創造学部	
波多野想	波多野想	地域・国際実践力演習Ⅲ	国際地域創造学部	
波多野想	波多野想	地域・国際実践力演習Ⅳ	国際地域創造学部	
波多野想	波多野想	卒業研究	国際地域創造学部	
波多野想	山極海嗣	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス講義 2回担当
藤田陽子	藤田陽子	環境経済学	国際地域創造学部経済学プログラム・法文学部総合社会システム学科・農学部 合併授業	昼間主クラス
藤田陽子	藤田陽子	環境経済学	国際地域創造学部経済学プログラム・法文学部総合社会システム学科 合併授業	夜間主クラス
藤田陽子	藤田陽子	島嶼社会経済入門	国際地域創造学部（学部共通科目）	オムニバス講義 4回担当
藤田陽子	山極海嗣	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス講義 1回を担当
藤田陽子	清水 肇	総合環境学概論	共通教育科目（環境学副専攻）	オムニバス講義 1回を担当
鳥山 淳	山極海嗣	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス講義 1回を担当
鳥山 淳	阿部 小涼	平和論	共通教育科目	オムニバス講義 2回を担当
宜野座綾乃	宜野座綾乃	ジェンダー学とインターセクショナリティ	共通教育科目	
宜野座綾乃	山極海嗣	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス講義 1回を担当
宜野座綾乃	石原昌英	琉球学入門	共通教育科目	オムニバス講義 1回を担当
山極海嗣	山極海嗣	島嶼地域科学入門	共通教育科目	オムニバス講義 3回担当
山極海嗣	石原昌英	琉球学入門	共通教育科目	オムニバス講義 1回を担当

【琉球大学における教育活動：大学院教育】

担当者	科目責任者	授業科目等	開講学部等	備考
波多野想	波多野想	島嶼文化資源論 A、B	地域共創研究科	
波多野想	波多野想	地域共創特別演習Ⅰ、Ⅱ	地域共創研究科	
波多野想	越智正樹ほか	観光・交流と地域共創	地域共創研究科	オムニバスで、1回担当
藤田陽子	藤田陽子	島嶼環境経済論 B	地域共創研究科	
藤田陽子	藤田陽子	沖縄・島嶼と地域共創	地域共創研究科	オムニバス授業。科目責任者及び講義2回担当。
藤田陽子	藤田陽子	文化・環境基礎	地域共創研究科	オムニバス授業。科目責任者及び講義2回担当。
藤田陽子	藤田陽子ほか	研究リテラシー	地域共創研究科	オムニバス授業。講義1回担当。
藤田陽子	喜納育江	SDGsと地域共創	地域共創研究科	オムニバス授業。講義1回担当。
藤田陽子	—	総合社会システム特別演習Ⅲ・Ⅳ	人文社会科学 研究科博士前期課程	政策評価実践コース担当教員によるチームティーチング
藤田陽子	鳥山 淳	比較地域文化総合演習Ⅰ～Ⅳ	地域共創研究科	博士後期課程担当教員全員によるチームティーチング
鳥山 淳	鳥山 淳	総合演習	人文社会科学 研究科	専攻主任として講義責任者を担当。
鳥山 淳	鳥山 淳	国際言語文化特別演習Ⅲ	人文社会科学 研究科	
鳥山 淳	鳥山 淳	国際言語文化特別演習Ⅳ	人文社会科学 研究科	
鳥山 淳	鳥山 淳	近現代沖縄政治社会史基礎特論	人文社会科学 研究科	
鳥山 淳	鳥山 淳	近現代沖縄政治社会史応用特論	人文社会科学 研究科	
宜野座綾乃	宜野座綾乃	沖縄における文化	地域共創研究科	オムニバス
宜野座綾乃	宜野座綾乃	ネイティブの表象文化論	地域共創研究科	前期
宜野座綾乃	宜野座綾乃	ネイティブの表象文化論	地域共創研究科	後期

山極海嗣	藤田陽子	沖縄・島嶼と地域共創	地域共創研究科	オムニバス授業。講義1回担当。
山極海嗣	山極海嗣	島嶼人類学 A・B	地域共創研究科	

【琉球大学における教育活動：研究指導大学院生、研究生等の受入】

担当者	受入の種別・課程など	研究テーマ	備考
波多野想	大学院生・修士課程（研究指導）	斎場御嶽の遺産化に関する研究	留学生
藤田陽子	大学院生・博士後期課程（副指導教員）	内包型原単位を応用した観光による包括的環境負荷の推計	
鳥山 淳	人文社会科学研究科博士前期課程（研究指導）	戦後沖縄の労働史と基地労働者の大量解雇	
鳥山 淳	人文社会科学研究科博士前期課程（研究指導）	沖縄戦に動員された男子学徒の記録編纂のあゆみ	

【学外における教育活動】

担当者	授業科目等	開講機関・学部等	備考
藤田陽子	環境と経済	沖縄大学 経法商学部	
鳥山 淳	沖縄平和論	沖縄国際大学 総合文化学部	
宜野座綾乃	英語購読 VI	沖縄キリスト教学院大学	

3. 社会連携（専任教員）

【社会活動・地域貢献（学外団体委員等）】

氏名	活動内容	活動期間
藤田陽子	日本島嶼学会理事	2019 年 11 月～継続中
藤田陽子	日本島嶼学会沖永良部島大会実行委員	2022 年 10 月開催
藤田陽子	日本地域学会理事	2021 年 1 月～継続中
藤田陽子	環境省地球環境局 気候変動適応における広域アクションプラン策定事業 九州・沖縄ブロック 生態系分科会アドバイザー	2020 年 9 月～2023 年 3 月
藤田陽子	沖縄県第 3 次環境基本計画検討委員会委員	2021 年 5 月～2023 年 3 月
藤田陽子	沖縄県公害審査会委員	2022 年 8 月～（2025 年 8 月予定）
藤田陽子	沖縄県国土利用計画審議会委員	2022 年 8 月～（2025 年 8 月予定）
藤田陽子	環境省 サンゴ礁生態系保全行動計画 2022-2023 フォローアップ会議（依頼出席）	2023 年 3 月
藤田陽子	令和 4 年度日本学術会議九州・沖縄地区会議 科学者懇談会・学術講演会 パネルディスカッションコーディネーター	2022 年 10 月 13 日開催
波多野想	沖縄総合事務局開発建設部「景観委員会」（委員）	2022 年度
波多野想	沖縄県「沖縄県景観評価委員会」（委員）	2022 年度
波多野想	沖縄県「景観形成審議会」（委員）	2022 年度
波多野想	那覇市「那覇市都市景観審議会」	2022 年度
波多野想	浦添市「浦添市景観まちづくり審議会」	2022 年度
波多野想	沖縄都市モノレール「沖縄都市モノレール車体利用広告審査会」（委員）	2022 年度
波多野想	沖縄県「沖縄県文化財保護審議会」（専門委員）	2022 年度
波多野想	沖縄市「名勝アミムクヌイ『越来グスク』整備委員会」（副委員長）	2022 年度
波多野想	南城市文化財保護審議会（委員）	2022 年度
波多野想	うるま市「うるま市観光まちづくり推進協議会」（副会長）	2022 年度
波多野想	「浦添グスクを中心とした『古都浦添』ブランディング構想検討協議会」（会長）	2022 年度
波多野想	南城市国土利用計画審議会（委員）	2022 年度
鳥山 淳	沖縄県史現代編専門部会	通年
鳥山 淳	沖縄県史編集委員会	通年
鳥山 淳	名護市史戦後生活誌編専門部会	通年
宜野座綾乃	女性・戦争・人権学会運営委員	2018 年度～継続中
山極海嗣	東南アジア考古学会編集委員	2018 年度～継続中

【国際活動・国際協力等】

氏名	活動内容	活動期間
宜野座綾乃	国際島嶼学会理事	2022 年～
宜野座綾乃	Folk, Knowledge, Place アドバイザリーボード	2022 年～
宜野座綾乃	Okinawan Journal of Island Studies 編集長	2019 年～
宜野座綾乃	JICA 母子保健強化研修講師	2020 年～

【所属学会】

氏名	学会名
藤田陽子	日本島嶼学会
藤田陽子	日本地域学会
藤田陽子	環境経済・政策学会
藤田陽子	日本リスク学会
藤田陽子	生活経済学会
波多野想	日本遺跡学会
波多野想	産業遺産学会
波多野想	観光学術学会
鳥山 淳	同時代史学会
鳥山 淳	日本平和学会
鳥山 淳	日本平和学会沖縄地区研究会
鳥山 淳	琉球沖縄歴史学会
宜野座綾乃	「女性・戦争・人権」学会
宜野座綾乃	American Studies Association
山極海嗣	東南アジア考古学会
山極海嗣	沖縄考古学会
山極海嗣	日本オセアニア学会
山極海嗣	物質文化研究会

IV. 外部資金等研究費獲得状況

1. 科学研究費助成事業
2. その他の競争的資金
3. 受託研究

1. 科学研究費助成事業（併任教員を含む）

【研究代表】

研究種目	代表者	期間	2021 年度獲得額 (単位：千円)
研究課題名			
基盤研究（B）	小林 潤	2022～2023 年度	2,100
低所得国貧困僻地でのライフコースアプローチによる母子保健戦略策定の為の評価研究			
基盤研究（B）	鳥山淳	2020～2023 年度	2,100
復帰前後の沖縄における基地と開発をめぐる住民運動に関する実証的研究と資料整備			
基盤研究（B）	矢野恵美	2022～2025 年度	1,560
児童虐待・DV における暴力の継続性に着目した対応（犯罪化）に関する多角的研究			
基盤研究（C）	野入直美	2022～2024 年度	1,040
米軍統治下の沖縄における奄美籍者の公職追放―「琉球人」から排除された者たちの移動			
基盤研究（C）	宜野座綾乃	2019～2022 年度	
女性琉球舞踊指導者のアメリカ社会におけるエイジェンシーの分析			
基盤研究（C）	越智正樹	2019～2023 年度	1,534
辺境観光地域における社会的 DMO 成立要件に関する観光経営社会学的分析			
基盤研究（C）	喜納育江	2019～2022 年度	1,560
現代アメリカにおける不寛容の言説と境域文化による多様性の再構築に関する研究			
基盤研究（C）	波多野想	2020～2022 年度	910
日本植民地下台湾における金瓜石鉱山の開発と事業圏域の拡大			
基盤研究（C）	淡野将太	2021～2023 年度	1,040
小学校における宿題の教育的効果の縦断的検討と宿題を用いた学習指導の提案			
基盤研究（C）	廣瀬 孝	2019～2022 年度	390
南西諸島におけるカルスト地形の形成プロセス：野外計測と野外実験からのアプローチ			
基盤研究（C）	内藤重之	2021～2023 年度	1,300
卸売市場制度「大改革」が卸売市場の流通機能と園芸産地・生産者へ与える影響の解明			
基盤研究（C）	杉村泰彦	2018～2022 年度	
食品ロスの削減・再資源化過程における品揃え形成と需給調整に係わる流通論的研究			

基盤研究 (C)	杉村泰彦	2021～2023 年度	1,560
食品ロス削減と食品循環資源における中間組織体の機能と持続可能な存立基盤の解明			
基盤研究 (C)	石原昌英	2022～2024 年度	780
ハワイのウチナアンチュ・コミュニティにおける沖縄語の維持継承に関する質的研究			
基盤研究 (C)	鈴木規之	2018～2021 年度	コロナ禍により延長
ホスト社会沖縄と日系人—ラテン文化資本の架橋性—			
基盤研究 (C)	宮内久光	2018～2022 年度	
離島地域における生活インフラの状況と多機能化による集落機能維持に関する研究			
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	小林潤	2020～2024 年度	2,700
市民科学と時空間解析による COVID-19 流行時のデング熱発生リスク評価の研究			
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	鈴木規之	2020～2024 年度	4,030
タイの開発と市民社会形成のプロセス—プラチャーコム（住民組織）のダイナミズム			
若手研究	當山奈那	2020～2022 年度	1,300
琉球諸語における受動・使役・授受の記述的研究			
若手研究	土井智義	2021-2024 年度	1,430
米国統治下の沖縄における本土籍者の活動と「日本人意識」：1945 年～1972 年			
若手研究	山里絹子	2022～2024 年度	
オキナワ・ディアスポラにおける戦争の記憶継承に関する基礎的研究			

【研究分担】

研究種目	分担者	代表者	期間	2020 年度獲得額 (単位：千円)
研究課題名				
基盤研究 (A)	當山奈々	狩俣 繁久	2022～2025 年度	15,990
文法記述と比較研究による琉球諸語と九州方言の歴史言語学的研究				
基盤研究 (A)	越智 正樹	四本 幸夫	2021～2025 年度	500
パンデミック時代の人口減少地域の観光による持続可能なコミュニティ作りへの比較研究				
基盤研究 (B)	宮内久光	新井 祥穂	2021～2023 年度	3,640
コロナ禍後の農業・農村の動態変化に関する比較研究				

基盤研究（B）	矢野恵美	齋藤実	2021～2023 年度	3,770
犯罪被害者支援に関する法制度等の総合的研究				
基盤研究（B）	矢野恵美	深町晋也	2020～2023 年度	5,590
児童虐待の刑事法的規制に関する領域横断型研究				
基盤研究（C）	杉村泰彦	坂井教郎	2017～2021 年度	
甘味資源作物の存在意義と地域農業の展望				
基盤研究（C）	杉村泰彦	内藤重之	2021～2024 年度	1,300
卸売市場制度「大改革」が卸売市場の流通機能と園芸産地・生産者へ与える影響の解明				
基盤研究（C）	淡野将太	越中康治	2020～2023 年度	910
攻撃行動に対する小学生の善悪判断の発達的变化：仮説的推論と道徳感情帰属に着目して				
基盤研究（C）	内藤重之	坂井教郎	2017～2021 年度	
甘味資源作物の存在意義と地域農業の展望				
基盤研究（C）	廣瀬孝	羽田麻美	2019～2023 年度	390
南西諸島におけるカルスト地形の形成プロセス：野外計測と野外実験からのアプローチ				
基盤研究（C）	小林潤	高橋謙造	2018～2022 年度	200
日本の乳幼児死亡率等改善の歴史を活用した国際保健教材の開発				
基盤研究（C）	小林潤	當山紀子	2018～2022 年度	0
ラオス国少数民族の母子保健継続ケアの利用と関連する要因に関する介入研究				
基盤研究（C）	當山奈那	崎原正志	2021～2024 年度	910
消滅の危機に瀕した琉球諸語沖縄本部町の伝統・新設集落の方言の記述文法				
基盤研究（C）	宜野座綾乃	秋林 こずえ	2022～2025 年度	
冷戦と性暴力ー北東アジアの長期駐留軍とインターセクショナルフェミニズム				
基盤研究（C）	山極海嗣	山野ケン陽次郎	2022～2025 年度	400
完新世におけるミクロネシアの人類拡散の考古学的再検証ー貝製品を中心にー				
新学術領域研究(研究領域提案型)	狩俣繁久	斎藤成也	2018～2022 年度	962
日本語と関連言語の比較解析によるヤポネシア人の歴史の解明				
挑戦的研究(開拓)	山極海嗣	小野林太郎	2020～2022 年度	527
東南アジアへ拡散したオーストロネシア語族の土器・埋葬文化に関する学際的研究				
挑戦的研究(萌芽)	小林潤	友川幸	2019～2022 年度	400
ケイパビリティ（潜在能力）の保障のためのアジアの就学前児の発育発達評価方法の開発				

挑戦的研究(萌芽)	小林潤	斉藤美加	2020～2023	100
八重山のマラリア撲滅に果たした「サイエンス」の役割の社会学的調査と検証				
国際共同研究加速 基金(国際共同研究 強化 (B))	山極海嗣	小野林太郎	2018～2022 年度 (延長)	718
オセアニアの人類移住と島嶼間ネットワークに関わる考古学的研究				

2. その他の競争的資金

担当者氏名	支出機関名	期間（年月日～年月日）	2021 年度獲得額 （単位：千円）
研究課題名			
大島順子	林野庁沖縄森林管理署	2021 年 4 月～2022 年 3 月	3,603
「令和 3 年度希少野生生物保護管理事業（沖縄島北部国有林）」			
小林潤	文部科学省	2021～2022	5,000
アジア太平洋島嶼のポストコロナの健康・安全な学校に関する研究			
小林潤	国立国際医療研究センター	2022	1,600
アジア・太平洋地域における児童・青年期の精神保健支援に資するアプローチ開発に関する研究			
本村 真	琉球大学研究推進機構	R4 年 7 月～R5 年 3 月	2,354
子どもの居場所とサポーター企業をつなぐ AI マッチングアプリの開発（研究協力）			

3. 受託研究

担当者氏名	支出機関名	期間（年月日～年月日）	2021 年度獲得額 （単位：千円）
研究課題名			
瀬口浩一	沖縄振興開発金融公庫	2022 年度	450
県内都市公園・スポーツ施設の管理運営等に関する現状と課題			
瀬口浩一	沖縄県、沖縄 TLO	2022 年度	500
沖縄県内製造業の生産性に関する研究			
鈴木規之（コーディネーター）	独立行政法人日本学術振興会	2022～2024 年度	6,352.5
研究課題名 研究拠点形成事業（B.アジア・アフリカ学術基盤形成型）「ラオスにおけるボトムアップ型農村コミュニティ開発のための協力ネットワークの形成」			
波多野想	日本学術振興会『課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業』（領域開拓プログラム）	2020 年 10 月～2023 年 3 月	2,847
対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化			

V . 研究所運営

1. 研究所会議
2. 所内委員会組織
3. 協議委員会
4. 共同利用・共同研究運営委員会
5. 専任教員ミーティング
6. 広報

1. 研究所会議

Microsoft Teams もしくは Zoom にてオンライン開催

月	日	会議名	摘 要
4	13	第 1 回 研究所会議	議題 1. 2022 年度公募型共同研究公募要領（案）および個人型共同利用公募要領（案）について 協議 1. 2022 年度テーマ設定型共同研究について 協議 2. 併任教員会議（仮）の開催について 報告 1. 2022 年度予算について 報告 2. 共同利用・共同研究運営委員会委員について 報告 3. Okinawan Journal of Island Studies 第 3 号 2 冊の発刊について 報告 4. 文科省特別経費概算要求プロジェクト 2021 年度年次報告書の完成について 報告 5. 『島嶼地域科学を拓く』（ミネルヴァ書房）の出版について 報告 6. A.G. ホプキンス先生（イギリス帝国史／グローバルヒストリー研究）の訪沖について 報告 7. 沖縄県庁委託研究（狩俣先生）について 報告 8. RIIS 資料室の開室について 報告 9. RIIS 会議室の利用再開について 報告 10. スタッフの勤務体制について
5	11	第 2 回 研究所会議	議題 1. 客員研究員の受入について 議題 2. 「共同利用・共同研究推進基本方針」の改定について（案） 協議 1. 2021 年度の所報の作成について（協力依頼） 協議 2. OJIS 編集補佐の募集について 報告 1. 2022 年度第 1 回共同利用・共同研究運営委員会（2022/5/9 開催）について（募集期間の変更含む）、応募書類審査の流れについて 報告 2. OJIS Vol.4 スペシャル号について 報告 3. Zoom アカウントの契約更新について 報告 4. A.G. ホプキンス先生（イギリス帝国史／グローバルヒストリー研究）のミニ講演について 報告 5. 2022 年度共通教育科目「島嶼地域科学入門」の実施について 報告 6. 概算要求について 連絡 1. 次回研究所会議について

月	日	会議名	摘 要
6	8	第3回 研究所会議	議題 1. 2021 年度島嶼地域科学研究所決算（案）について 議題 2. 2022 年度島嶼地域科学研究所予算（案）について 議題 3. 2022 年度公募型共同研究・個人型共同利用の予備審査について 議題 4. 2 名の客員研究員の受入について 連絡 1. 今後の研究所会議開催予定について
7	13	第4回 研究所会議	議題 1. 客員研究員の受入について 協議 1. 9 月研究所会議の不開催について 報告 1. 2022 年度第 2 回共同利用・共同研究運営委員会の開催、および採択課題の決定について 報告 2. バルダッキーノ先生の来沖について 報告 3. OJIS 編集補佐について 報告 4. 『島嶼地域科学』の発刊について 報告 5. 2021 年度所報の作成進捗について 報告 6. 客員研究員の来沖について 報告 7. テーマ設定型共同研究のテーマについて 連絡 1. 次回研究所会議について
8	10	第5回 研究所会議	議題 1. 発行雑誌掲載論文等への DOI の付与について 議題 2. RIIS 研究活動ガイドラインの改訂（改訂 2 版）について 協議 1. 令和 5 年度教員ポスト戦略的再配分（部局等改革推進枠）への申請について 報告 1. 国立国語研究所と島嶼地域科学研究所との連携・協力に関する協定書の締結について 連絡 1. 次回の研究所会議について
10	12	第6回 研究所会議	議題 1. （台湾）国立虎尾科技大学との協定締結について 議題 2. 2021 年度所報（案）について 協議 1. 『島嶼地域科学を拓く』の書評の掲載とオンライントークイベント開催について 報告 1. 教育研究機能促進経費（プロセス配分）の令和 3 年度報告書及び令和 4 年度取組構想調書の提出について 報告 2. 次号定期刊行物の出版準備状況について 報告 3. 客員研究員の着任について 報告 4. 2022 年度後期共通教育科目「島嶼地域科学入門」の開始について 報告 5. 科研費部局訪問について 報告 6. 日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会について 連絡 1. 次回の研究所会議について

月	日	会議名	摘 要
11	9	第 7 回 研究所会議	議題 1. 教員選考内規等の改正について 協議 1. SICRI 「The 17th International Conference on Small Island Cultures」について 協議 2. 国際地理学連合の国際会議「Island in Relations: Conflict, Sustainability and Peace」関連イベントの実施について 報告 1. 第 4 回研究推進会議（11 月 7 日(月)開催）について 連絡 1. 次回の研究所会議について
12	14	第 8 回 研究所会議	審議 1. 2023 年度併任教員継続意思確認について 協議 1. 『島嶼地域科学を拓く』のトークイベント開催（案）について 報告 1. 教育研究機能促進経費（プロセス配分）の評価結果と配分について 連絡 1. 次回の研究所会議について
1	11	第 9 回 研究所会議	議題 1. 令和 5 年度・6 年度客員研究員について 議題 2. 令和 4 年度教育研究機能促進経費（プロセス配分）の使途について 報告 1. 予算の再配分について 報告 2. 共同利用共同研究合同報告会の開催について 報告 3. 「国立虎尾科技大学（台湾）と琉球大学島嶼地域科学研究所との連携・協力に関する覚書」の締結について 報告 4. 2023 年度併任教員継続意志確認について 連絡 1. 次回の研究所会議について
2	8	第 10 回 研究所会議 (Zoom 開催)	議題 1. 令和 5 年度併任教員継続について 議題 2. 令和 5 年度客員研究員の申請について 報告 1. 共同利用共同研究合同報告会の開催について 報告 2. 島嶼地域科学研究所教員選考内規の一部改正について 報告 3. Post IGU 座談会の開催について 報告 4. 次号定期刊行物の出版準備状況について 報告 5. 研究会開催予定について 連絡 1. 次回の研究所会議について
3	8	第 11 回 研究所会議	議題 1. 客員研究員の申請について 議題 2. 研究所会議規程の改訂について 議題 3. 次期（2023～2024 年度）所長について 協議 1. 令和 5 年度共同利用共同研究事業について 協議 2. 『島嶼地域科学』および <i>Okinawan Journal of Island Studies</i> 編集委員会規程の制定について（案） 報告 1. 次号定期刊行物の出版準備状況について

			報告 2. Post IGU 座談会の開催について 報告 3. 共同利用共同研究合同報告会の開催について 報告 4. 山里勝己先生の退任記念講演における花束贈呈について 報告 5. 虎尾科技大学表敬訪問について
--	--	--	---

2. 所内委員会組織

(1) 共同利用・共同研究運営委員会

ZOOM にてオンライン開催

月	日	会議名	摘 要
5	9	第 1 回 共同利用・共同研究 運営委員会	議題 1. 共同利用・共同研究運営委員会について 議題 2. 共同利用・共同研究事業について 議題 3. 公募型共同研究公募要項（案）について 議題 4. 個人型共同利用公募要項（案）について
6	20	第 2 回 共同利用・共同研究 運営委員会	議題 1. 2022 年度琉球大学島嶼地域科学研究所公募型共同利用 審査について 議題 1. 2022 年度琉球大学島嶼地域科学研究所個人型共同利用 審査について
3	11	第 3 回 共同利用・共同研究 運営委員会	議題 1. 共同利用・共同研究の実績について 議題 2. 令和 4 年度島嶼地域科学研究所の活動について 議題 3. 令和 5 年度個人型共同利用・公募型共同研究（案）に ついて

(2) 協議委員会

ZOOM にてオンライン開催

月	日	会議名	摘 要
3	24	第 1 回 協議委員会	協議 1. 令和 4 年度島嶼地域科学研究所の活動について 協議 2. 令和 5 年度島嶼地域科学研究所の活動について (計画)

(3) *Okinawan Journal of Island Studies (OJIS)* 編集委員会

月	日	会議名	摘 要
7	20	第 1 回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議 オンライン会議	1. <i>OJIS</i> Volume 4. 通常号投稿状況 2. <i>OJIS</i> Volume 4. スペシャル号進捗状況 3. <i>OJIS</i> Volume 5. スペシャル号のご提案 4. <i>OJIS</i> 編集補佐選考結果
9	5	第 2 回 <i>OJIS</i> 編集委員会会議 オンライン会議	1. スクリーニングをした書評の掲載可否 2. 投稿論文のスクリーニング 3. 附属図書館 DOI 付与に伴う JaLC (ジャパンリンクセ ンター) 付与

			4. OJIS 編集補佐の紹介
3	16	第 3 回 OJIS 編集委員会会議 メール会議	1. OJIS Volume 4 通常号、スペシャル号進捗状況報告 2. OJIS 通常号査読通過論文の掲載可否審議 3. オンラインのみ出版に向けた、紙面 PDF レイアウトの 案の検討

(4)『島嶼地域科学』編集委員会

月	日	会議名	摘 要
4	21～25	【電子編集委員会】	議題 1. 再査読依頼について
5	19	第 3 回『島嶼地域科学第 3 号』 編集委員会会議	議題 1. 原稿の採否について 議題 2. 再査読依頼について
6	6	【電子編集委員会】	議題 1. 原稿の採否について
6	13～14	【電子編集委員会】	議題 1. 掲載証明について
6	30	『島嶼地域科学 第 3 号』J-STAGE 公開	
8	8	【電子編集委員会】	議題 1. 投稿募集の告知について
12	21	『島嶼地域科学』編集委員会会議	議題 1. 査読の進め方について
1	11～17	【電子編集委員会】	議題 1. 原稿投稿状況について 議題 2. 査読依頼について

3. 専任教員ミーティング

Microsoft Teams にてオンライン開催

月	日	会議名
4	6	第1回 専任教員ミーティング
4	20	第2回 専任教員ミーティング
5	18	第3回 専任教員ミーティング
6	1	第4回 専任教員ミーティング
6	15	第5回 専任教員ミーティング
6	29	第6回 専任教員ミーティング
7	6	第7回 専任教員ミーティング
7	20	第8回 専任教員ミーティング
8	3	第9回 専任教員ミーティング
9	21	第10回 専任教員ミーティング
9	28	第11回 専任教員ミーティング
10	5	第12回 専任教員ミーティング
10	19	第13回 専任教員ミーティング
11	2	第14回 専任教員ミーティング
11	16	第15回 専任教員ミーティング
12	7	第16回 専任教員ミーティング
12	21	第17回 専任教員ミーティング
1	18	第18回 専任教員ミーティング
2	1	第19回 専任教員ミーティング
2	15	第20回 専任教員ミーティング

月	日	会議名
3	1	第 21 回 専任教員ミーティング
3	15	第 22 回 専任教員ミーティング

4. Academic Development

Microsoft Teams にてオンライン開催

月	日	担当教員	テーマ
4	27	波多野 想	RIIS 併任教員 2022 年度共同研究案
5	25	宜野座 綾乃	Canada Social Sciences and Humanities Research Council(SSHRC)への応募計画
7	27	波多野 想	大型研究費の獲得に向けた RM
1	25	波多野 想	2023 年度公募型共同研究とテーマ設定型共同研究のテーマについて
3	22	全 員	IGU-RIIS Workshop 'Islands and Oceans in Dialogue'について

5. 広報

島嶼地域科学研究所ウェブサイト <https://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>

各種イベント、取り組みに関するお知らせ、データベース等、島嶼地域科学研究所の最新情報からこれまでに蓄積された研究成果まで幅広いコンテンツを紹介している。

2022年度は、[お知らせ] 18件、[イベント情報] 3件を掲載した。また、本年度から弊所所属教員の学会発表や論文成果公開情報を発信するなど研究成果の発信に力を入れている。



島嶼地域科学研究所公式フェイスブック <https://www.facebook.com/RIIS.u.ryukyus/>

島嶼地域科学研究所ウェブサイトで公開した情報をベースに情報を更新している。海外の方向けに、日本語と英語の両方で情報を発信している。2022年度は、20件を新規投稿した。フォロワーは115人（2023年9月現在）で、フォロワー数は増加傾向にある。



島嶼地域科学研究所公式ツイッター https://twitter.com/Riis_Ryukyu

島嶼地域科学研究所ウェブサイトで公開された情報を基に国内外へ向けて日英両言語で情報を発信している。Twitter ではインタラクティブ性も考慮して、ちょっとした研究活動などの情報を発信するなど実験的な活動にも取り組んでいる。2022 年度は 27 件の情報を投稿した。フォロワー数は 101 人（2022 年 9 月現在）となっており、Facebook よりも増加傾向にある。



付属資料



当研究所主催・共催イベントポスター

1. オンライン講演「過去の選択的召喚と棄却されるオーセンティシティ」 ポスター
2. 特別講義「内部差の大きいスラブ少数言語のための正書法」 ポスター
3. **2022** 年度個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会 ポスター

1. オンライン講演「過去の選択的召喚と棄却されるオーセンティシティ」ポスター

「文化遺産の学際的研究」プロジェクトオンライン研究会

主催：上智大学アジア文化研究所 共催：琉球大学島嶼地域科学研究所（RIIS）

過去の選択的召喚と棄却されるオーセンティシティ —台湾・金瓜石鉱山の事例から



講師：波多野 想（琉球大学島嶼地域科学研究所）

【日時】 **2022年8月6日（土） 14:00-15:30**

【講演概要】

台湾北東部に残る金瓜石鉱山は、日本統治期に開発された金山である。しかし1987年の閉山から30数年が経過し、過去を記憶する住民が少なくなってきた。そこで一部の住民は、自身や前世代の記憶を頼りに過去の鉱山施設を模型にして展示する私設展示館を開設した。

彼らが模型を製作する際に依拠した過去は、自らの体験、他世代との交流のなかで得た情報、それらが混在したもの、古写真など、多様である。それらの過去は、歴史研究によって明らかにされた史実と同一とは限らない。そうした特性をもつ過去をもとに製作された模型も、過去に存在した鉱山施設の形状と同一とはならない可能性がある。それでもなお、過去の物質化を実践する住民の思惑はどこにあるのか。住民は、過去を可視化することに、どのような意義を見出しているのだろうか。本発表では、金瓜石鉱山における住民による新たな歴史実践について、オーセンティシティの観点から話題提供したい。



金瓜石鉱山に残る製錬所跡



住民が製作した模型

【開催方式】Zoom によるオンライン開催

【申込方法】**2022年8月4日（木）まで**に以下のリンク
もしくはQRコードからご登録ください。

開催前日に、登録メールアドレス宛にZoomミーティング情報をお送りします。

【事前登録用リンク】 <https://forms.gle/PFbLAJyiXnm7M9AB8>

お問い合わせ先：上智大学アジア文化研究所 i-asianc@sophia.ac.jp



2. 特別講義「内部差の大きいスラブ少数言語のための正書法」ポスター



Orthographies for small Slavic languages with significant internal differentiation

使用言語 / Language
英語 / ENGLISH

Case studies of Prekmurje Slovene and Montenegrin

内部差の大きいスラブ少数言語のための正書法：
プレクムリエ・スロベニア語およびモンテネグロ語の場合



日時：2022年11月16日(水) 16:20 – 17:50

Date and time: **Nov 16(Wed)**, 2022, 16:20 – 17:50

講師 / Speaker: **Prof. Marc L. GREENBERG**
(U of Kansas / SRC at Hokkaido U)

会場：琉球大学 共通教育棟2号館102号室

Venue: University of the Ryukyus, General Education Center, Bldg. 2, Room 102

概要：スロベニア語の話者は200万人程度であるが、方言差が大きく、数え方によってその数は30以上にもなる。歴史的には、標準スロベニア語とは異なる標準形態を持つもの、あるいは形成の試みも見られる。隣で話されるかつてのセルビア・クロアチア語が崩壊していく過程で、いかに言語が再標準化されていくかについて、特に文字の問題から論じる。

対面とZoom並行のハイブリッド形式で開催します。(Hybrid format)

参加費は無料です。(Participation fee: Free)

参加希望の方は、2022年11月15日(火)正午までに登録フォームより
申し込んでください。参加登録URL <https://forms.gle/6Ai4QmUJ7ikH19TYA>

対面参加の方は、当日参加も可能です。会場に直接おこしください。

(感染対策のため、なるべく事前申し込みいただきますようお願いします)

Pre-registration required: Nov 15, 2022(Tue) 12:00



Registration URL

主催 / 琉球大学人文社会学部琉球アジア文化学科

共催 / 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 琉球大学島嶼地域科学研究所

お問い合わせ Contact / 富山奈那 (tohyama@hs.u-ryukyu.ac.jp)

3. 2022 年度個人型共同利用・公募型共同研究合同報告会 ポスター



琉球大学島嶼地域科学研究所は、沖縄やアジア太平洋地域を含む世界の島嶼地域の自律的・持続的発展に資する学際的共同研究の推進を使命としています。本共同利用・共同研究事業は、この目的を達成するために、国内外の島嶼地域研究者との学術ネットワーク拠点の活動の一環として実施するものです。本報告会では、2022年度に採択された研究課題とその成果を共有し、これからの島嶼地域科学について議論します。

■ 開催日時

2023年3月11日（土）
10:00-11:30

■ 開催方法

Zoomによるオンライン開催

■ プログラム

開会挨拶	木暮一啓（琉球大学 理事・副学長）
共同利用・共同研究事業概要説明	波多野想（島嶼地域科学研究所所長）
報告① 個人型共同利用 沖縄における子どもの貧困対策の成果に関する教育社会学的研究－中卒無業者支援をめぐる教員たちへのインタビュー調査から	糸数温子（一橋大学大学院博士課程）
報告② 公募型共同研究 南西諸島および三重県志摩島等の島嶼における擬制親子慣習と現代児童福祉のありようからみた子育てに関するコミュニティ・システムの研究	白井千晶（静岡大学） 有井晴香（北海道教育大学） 磯部美里（国際ファッション専門職大学） 梅津綾子（南山大学） 中谷純江（鹿児島大学）
総括	共同利用・共同研究運営委員会委員
閉会挨拶	波多野想（島嶼地域科学研究所所長）

■ 参加方法

ご参加を希望される方は、下記弊所メールアドレスへ所属先とお名前を添えて、ご連絡ください。後日、担当者よりZoom URLを送付いたします。

【お問い合わせ先】

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学島嶼地域科学研究所（担当：糸数・佐藤）
電話：098-895-8475 E-mail: riis@riis.skr.u-ryukyu.ac.jp



Research Institute for Islands and Sustainability
UNIVERSITY OF THE RYUKYUS
1 SENBARU, NISHIHARA, OKINAWA, 903-0213, JAPAN



島嶼地域科学研究所 所報 2022 年度

2023 年 10 月 1 日 発行

編集・発行

国立大学法人 琉球大学

研究推進機構 島嶼地域科学研究所

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1

電話: 098-895-8475 Fax: 098-895-8308

<http://riis.skr.u-ryukyu.ac.jp/>